

柔道整復師国家試験科目，衛生学・公衆衛生学における出題傾向

末吉 祐介, 松本 揚, 大澤 裕行, 野田 哲由

田村 哲也, 長谷川 龍成, 高山 明莉

了徳寺大学・健康科学部整復・医療トレーナー学科

要旨

本研究の目的は柔道整復師国家試験科目である衛生学・公衆衛生学の出題傾向を分類することである。対象は第14回～第26回の柔道整復師国家試験において出題された衛生学・公衆衛生学の問題164問であり、対象とした164問について、公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修の衛生学・公衆衛生学に記載されている目次に基づき分類した。最も出題頻度が高かった項目は生活環境・食品衛生活動で、次いで感染症の予防、消毒、環境衛生の順に出題数が多かった。過去、国家試験で出題された問題を分類、分析することは国家試験対策を考える上で重要である。今回の分類で出題数の多かった項目を学習することで国家試験合格率の向上が期待できると考えられた。

キーワード：柔道整復師国家試験，衛生学・公衆衛生学，国家試験対策

The Tendencies in the Types of Questions Given on Hygiene and Public Health in the National Examination for the Judo Therapy Practitioners.

Yusuke Sueyoshi, Yo Matsumoto, Hiroyuki Ohsawa, Tetsuyoshi Noda,

Tetsuya Tamura, Tatsunari Hasegawa, Akari Takayama

Department of Judothrapy and Sports Medicine, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University

Abstract

The purpose of this study was to classify what types of questions were frequently given on the subjects of Hygiene and Public Health in the National Examination. The 164 questions were chosen from the 14th to 26th national examinations for the analysis. Those questions were further categorized based on the table of contents of the editorial publication, “Hygiene and Public Health” issued by the Foundation for the Judo Therapy Practitioners Association. The result revealed that the most frequently asked questions were about the Living Environment・Education for Food Hygiene. Then, Prevention of infectious Diseases was questioned next most often. Understanding the tendencies of the questions could help improve efficiency of preparing for the national examination.

Keywords : National examination for judo therapist, Hygiene and Public Health

I. 背景

柔道整復師国家試験（以下、国家試験）の合格率は近年低下しており、今年行われた第26回国家試験では全体の合格率が58.4%と過去最低となっている。平成10年度には80%を超えていた合格率は、平成16年度に入り70%台となり、以降は前後しながら推移していたが、平成28年度には60%前半となり、平成30年度にはついに60%を割る合格率となった（図1）。

合格率低下の背景には、柔道整復師の増加があると考えられる。平成10年度には14校であった養成施設は平成27年度には109校と8倍近く増えており、養成校の増加に伴って国家試験受験者数も右肩上がりに増え続け、平成22年にピークの7156名の受験者数となった（図2）。

柔道整復師の増加による質の低下、実際には行っていない施術を行ったものとして施術録に不実記載し、療養費を不正に請求する架空請求などの不正請求の増加が懸念されることとなり、平成30年度には養成校のカリキュラム改正が行われた。

第28回国家試験では、国家試験出題基準が改訂され必修問題が30問から50問に増加し、必修問題の出題範囲も現在の「解剖学」、「生理学」、「運動学」、「病理学概論」、「衛生学・公衆衛生学」、「一般臨床医学」、「外科学概論」、「整形外科学」、「リハビリテーション医学」、「柔道整復理論」及び「関係法規」の範囲から「柔道整復術の基礎」、「保険診療に関する知識」および「関係法規に関する知識」に変更される。

このような変化から今後も国家試験合格率は低下傾向が続くと考えられ、対策が必要だと考えられる。松本ら¹⁾は養成施設で行われている国家試験対策が国家試験合格率の向上に効果をあげていないと考察しており、国家試験対策を見直す必要があると考えられる。

国家試験科目のひとつである衛生学・公衆衛生学は16項目により構成されている（図3）。国家試験問題230問のうち12問を衛生学・公衆衛生学から出題されている。

過去、国家試験で出題された問題を分類、分析することは国家試験対策を考える上で重要である。出題頻度の多い項目を重点的に学習することで、国家試験対策をより効率的に行うことができ、国家試験合格率の向上に役立つと考えられる。国家試験問題の出題傾向に関する報告では、柔道整復理論の出題傾向を分類した報告が4件^{1) 2) 3) 4)}、解剖学⁵⁾が1件、生理学⁶⁾が1件、一般臨床医学⁷⁾が1件、リハビリテーション医学⁸⁾が1件である。

国家試験対策を考える上で、出題傾向を知ることは重要であると考え、我々は、現在の必修問題が導入された第14回から第26回国家試験を対象に衛生学・公衆衛生学の出題傾向を分類した。

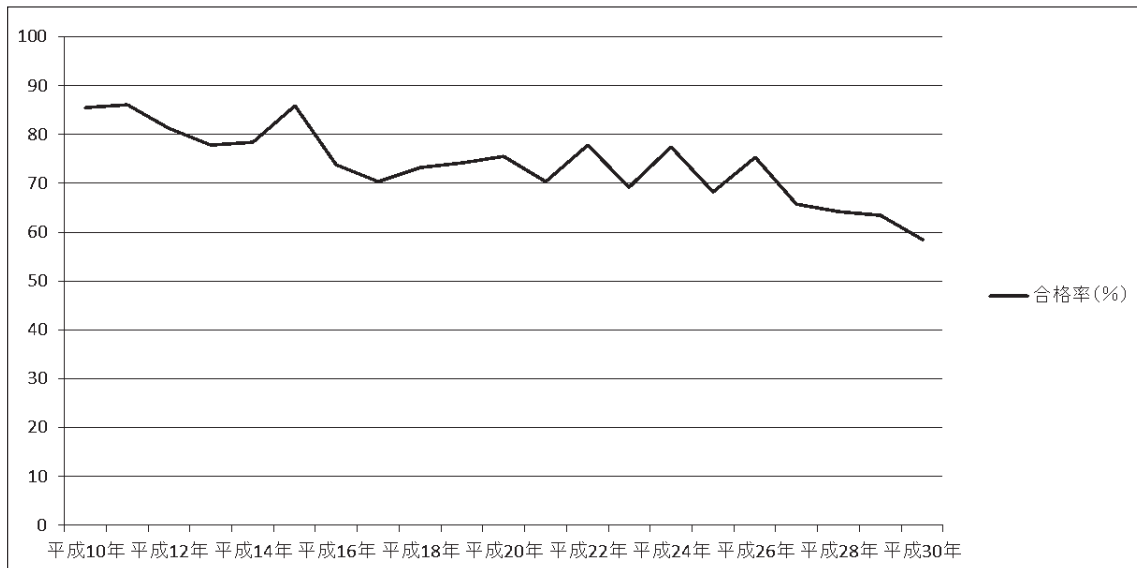


図1 国家試験合格率の推移

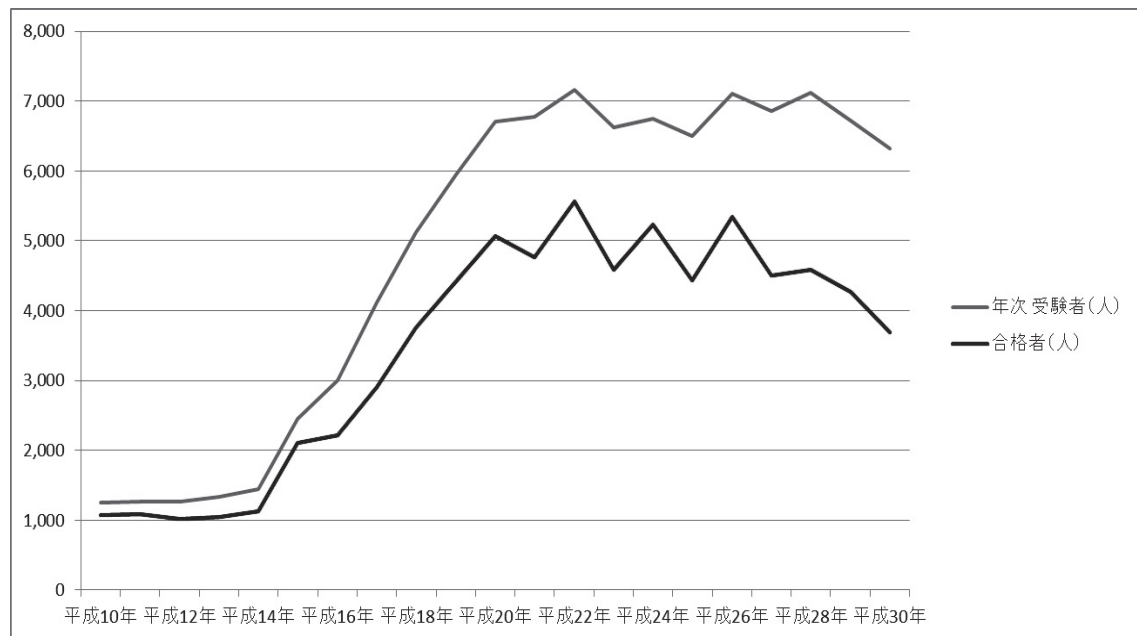


図2 国家試験受験者の年次推移

衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
健康の概念
疾病予防と健康管理
感染症の予防
消毒
環境衛生
生活環境・食品衛生活動
母子保健
学校保健
産業保健
成人・高齢者保健
精神保健
地域保健と国際保健
衛生行政と保健医療の制度
医療の倫理と安全の確保
疫学

図3 衛生学・公衆衛生学を構成する項目

Ⅱ. 目的

国家試験科目である衛生学・公衆衛生学の出題傾向を分類することである。また、それによる国家試験合格率の向上を目的とする。

Ⅲ. 対象・方法

現在の試験形式である必修問題が導入された第14回～第26回の国家試験において出題された衛生学・公衆衛生学の問題164問（一般問題154問，必修問題10問）を対象とした。対象とした164問について，全国柔道整復学校協会監修衛生学・公衆衛生学⁹⁾に基づき分類した。出題基準によって分類できない問題は分類不能として扱った。

Ⅳ. 結果

一般問題154問のうち，最も出題頻度が高かった項目は生活環境・食品衛生活動27問（18％）で，次いで感染症の予防22問（14％），消毒，環境衛生15問（10％）の順に出題数が多かった（図4）。

必修問題10問のうち，最も出題頻度が高かった項目は消毒7問（70％）で，次いで健康の概念2問（20％），医療の倫理1問（10％）であった（図5）。

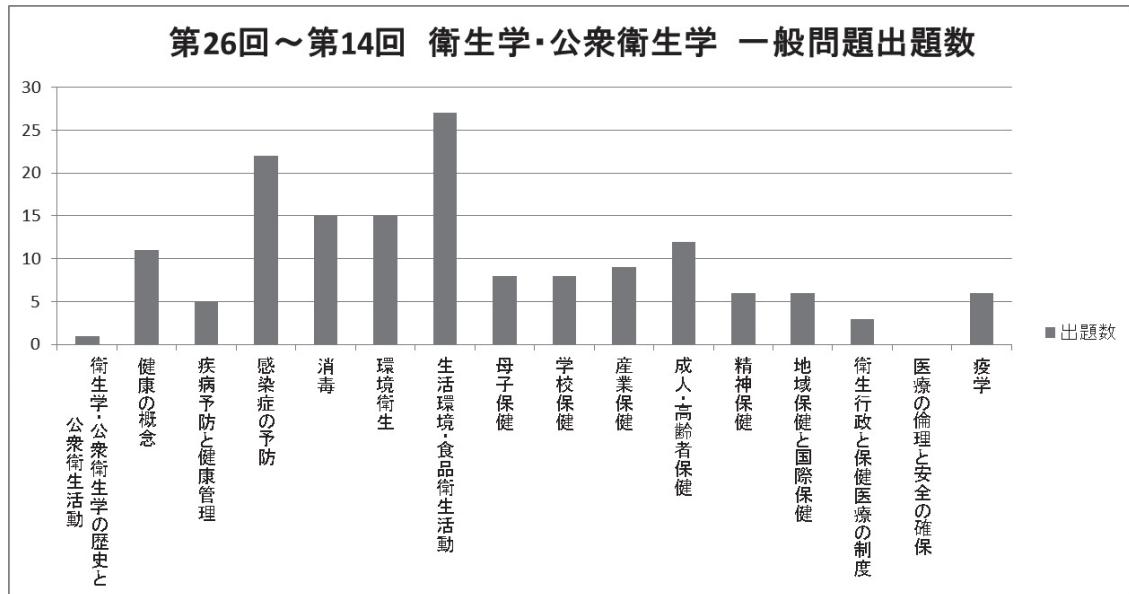


図4 衛生学・公衆衛生学一般問題の出題数

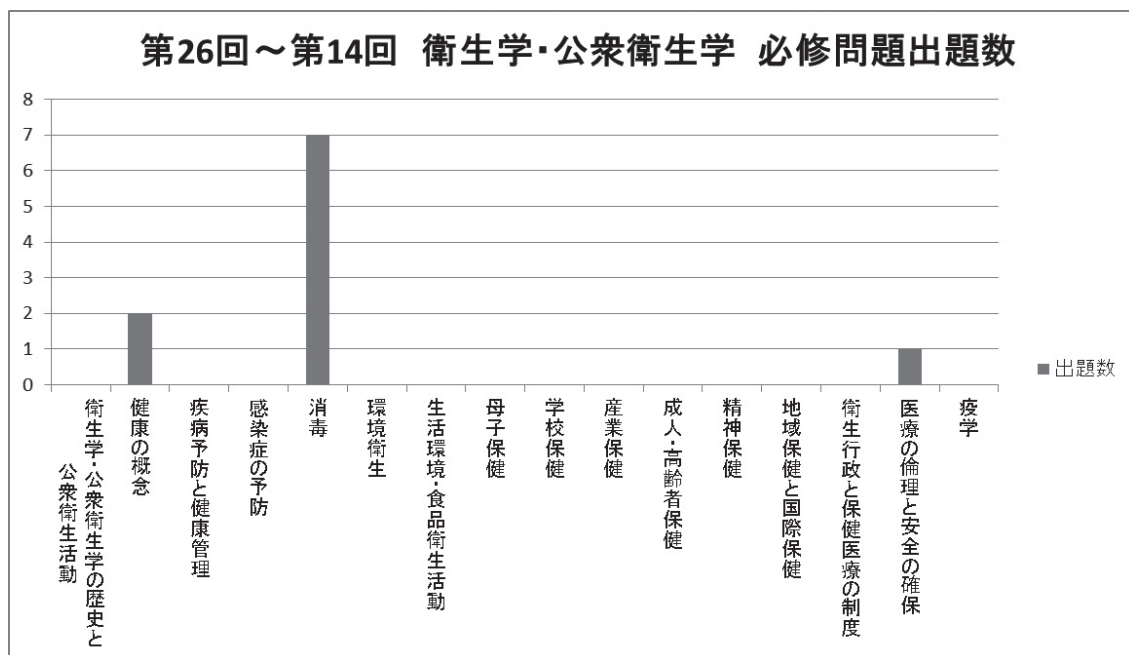


図5 衛生学・公衆衛生学必修問題の出題数

V. 考察

一般問題のうち、最も出題頻度が高かった項目は生活環境・食品衛生活動であった。この項目を細分化すると、水の衛生と水質汚濁、衣服、住居、食品、食品衛生活動、栄養改善活動、廃棄物処理、消費者保健活動により構成されている。細分化された各項目からバランスよく出題されており、国民の生活に密接に関わる衛生の知識が問われていることが伺える。

次いで多く出題されていた感染症の予防については、様々な感染症により多くの人類の命が奪われてきた背景を考えれば、地域医療を支える柔道整復師にとってなくてはならない知識であると考えられる。

必修問題では出題された10問のうち7問が消毒の項目から出題されていた。かなり偏った出題となって

おり、必ず学習しておく必要があると考えられる。1問のみ出題されている医療の倫理と安全の確保であるが、この領域から関係法規の必修問題が出題されていることから、しっかりとした対策が必要であると考えられる。

今後も国家試験合格率は低下傾向が続くことが予想されるため、しっかりとした国家試験対策を行う必要がある。対策にあたり過去の国家試験問題の出題頻度を調査することは、国家試験を控える学生にとって有益な情報になると考えられる。

今回、国家試験科目である衛生学・公衆衛生学の出題傾向を分類した。生活環境・食品衛生活動で、次いで感染症の予防、消毒、環境衛生の順に出題数が多かった。このことから、衛生学・公衆衛生学を学習するにあたっては生活環境・食品衛生活動、感染症の予防、消毒、環境衛生の範囲を重点的に学習することで国家試験合格率の向上が期待できると考えられた。

参考文献

- 1) 松本揚, 岡田隆, 岡村知明ほか (2014) 柔道整復師国家試験必修問題に出題された柔道整復理論の出題傾向. 了徳寺大学研究紀要. 9, 97-101.
- 2) 田辺達磨, 松本揚, 大澤裕行 (2016) 柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向 - 柔道整復理論に着目して -. 了徳寺大学研究紀要. 9, 79-83.
- 3) 服部辰広, 久保山和彦, 猪越孝治ほか (2016) 第13回～第23回柔道整復師国家試験における必修問題の出題分析 - 柔道整復理論154問の分析より -. 日本体育大学紀要. 45, 113-117.
- 4) 服部辰広, 久保山和彦, 猪越孝治ほか (2016) 第18回～第24回柔道整復師国家試験における一般問題の出題分析 - 柔道整復理論245問の分析より -. 日本体育大学紀要. 46, 39-44.
- 5) 角田佳貴, 田村哲也 (2017) 柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向 - 解剖学に着目して -. 了徳寺大学研究紀要. 11, 63-67.
- 6) 長濱節子 (2016) 柔道整復師国家試験問題生理学分野の傾向分析 (2) - はり師・きゅう師, あん摩マッサージ指圧師, 理学療法士・作業療法士の各国家試験問題との比較傾向分析 -. 帝京平成大学紀要. 27, 25-37.
- 7) 末吉祐介, 松本揚, 大澤裕行ほか (2017) 柔道整復師国家試験科目一般臨床医学における出題傾向. 了徳寺大学研究紀要. 11, 47-52.
- 8) 末吉祐介, 松本揚, 大澤裕行ほか (2018) 柔道整復師国家試験科目, リハビリテーション医学における出題傾向. 了徳寺大学研究紀要. 12, 49-52.
- 9) 公益社団法人柔道整復学校協会 (2015) 衛生学・公衆衛生学改訂6版, 南江堂, 東京. VII-XIV.